

各種予防接種標準スケジュール表

2019/01/01 現在

- ◆ これは元は当院の職員教育用のあんちょこです。予防接種に関心が高い保護者の方の参考のため公開します。
- ◆ 現状、日本ではあまり一般的には行われていない物も記載してあります。でも近年だいぶ状況が変わってきました。
- ◆ ただし日本では特殊な事しないと事実上使えないワクチンは記載してません。
- ◆ 元が職員用あんちょこなので、読みづらい言葉や用語解説が丁寧でないが許してね。
- ◆ 詳しくは是非ここ見て下さい。→ <http://www.know-vpd.jp/>
- ◆ 接種開始年齢が若い順に並べました。
- ◆ 不活化ワクチン接種後は 1 週間、生ワクチン接種後は 4 週間、他のワクチンまで開ける必要があります。
- ◆ この冊子は割と頻りに更新するので、最新版は <http://www.miyacli.com/vaccine.html> をご覧ください。

● B 型肝炎(HBV)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	0 歳(2ヶ月)	3ヶ月頃	7ヶ月頃	10~15 歳
開始時年齢				
2ヶ月 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加
	←28日(4週相当)		←1歳前に3回目を終わらず	
	←1回目から140日(5~6ヶ月後に相当)			

- ◆ 通常の理想的な接種は、**2ヶ月で1回目、3ヶ月で2回目、7~8ヶ月で3回目**。
- ◆ これは1・2回目については、Hib や PCV 等と同時にやるべし、という事を意味する。
- ◆ 賞味期限は 10~15 年なので、10~15 歳の時に追加接種するのが望ましい。女子なら HPV と同時とかで。
- ◆ 垂直感染(母親が B 型肝炎の場合に、それが出産時に児に感染する事)例では、出産後即(12 時間以内)接種開始。この場合は健康保険でできる。日本ではこういう↑例は妊娠中からチェックされているので、産科の先生に任せます。
- ◆ 公費でできるのは **0 歳児のみ**。1 歳になるとアウトで、以降は自費。ただし自費でも接種した方が良い。

● ロタウィルスワクチン(RV)接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン

◎ ロタリックスの場合

児の年齢	0 歳(6週以降)	3ヶ月頃
開始時年齢		
2ヶ月 計2回接種 これが標準	1回目	2回目
	←20週迄に1回目を終わらず	
	←24週迄に2回目を終わらず	
	4週以上	

◎ ロタテックの場合

児の年齢	0 歳(6週以降)	3ヶ月頃	4ヶ月頃
開始時年齢			
2ヶ月 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目
	←24週迄に1回目を終わらず		←32週迄に3回目を終わらず
	←28週迄に2回目を終わらず		
	4週以上		4週以上

- ◆ 2014.6 月現在、GSK 社製 “ロタリックス®” と、MSD 社製 “ロタテック®” の 2 製品があり、両者で接種回数等が異なる。
- ◆ 理想的な接種は、**2ヶ月に1回目、3ヶ月で2回目(ここまで共通)、4ヶ月で3回目(ロタテック®のみ)**、となる。
- ◆ いずれのワクチンも接種可能期間に制限がある。どちらも **1 回目は 6 週齢以降** でなければならない。
- ◆ (ロタリックス®) **1 回目は 20 週、2 回目は 24 週までに** 接種しなければならない。
- ◆ (ロタテック®) **1 回目は 24 週、2 回目は 28 週、3 回目は 32 週までに** 接種しなければならない。
- ◆ この制限は厳守が求められ、過ぎると接種する事ができない。
- ◆ ここで言う「までに」とは、例えば「20 週までに」は「生後 140 日までに」という意味で、141 日はアウト。
- ◆ 腸重積の既往がある児には接種できない。
- ◆ 6 週齢以降なら接種できるが、他のワクチンとの兼ね合いから 1・2(・3)回目共、Hib+PCV 等と同時にやるべし。

● Hib ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	0 歳	1 歳	2 歳
開始時年齢	初回免疫の期間		追加免疫の期間
2~6ヶ月 計4回接種 これが標準	1回目 2回目 3回目 4週以上 4週以上	追加 (通算4回目) ←1歳前に3回完了させる 7ヶ月以上	←1歳になり次第やる ただし3回目から7ヶ月以上後
7~11ヶ月 計3回接種	1回目 2回目 4週以上 ↑ 最遅1歳前 7ヶ月以上	追加 (通算3回目)	←1歳になってからやる 2回目からは7ヶ月以上後
1歳~4歳 計1回接種		1回 で終了	
5歳~ 適応外			

- ◆ 理想的な接種は、2ヶ月、遅くとも6ヶ月から開始して1歳になる前に初回接種(3回)を済ませ、後に(1歳になり次第)追加免疫としてブースターかける為にもう1回、となる。追加免疫は必ず1歳になってから行う。PCV13と同じ。
- ◆ 「4週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由はDPTPやPCV13と同時にやりたいから。
- ◆ あとロタウィルスワクチン(RV)やB型肝炎ワクチン(HBV)も同時にやるともっと良い。
- ◆ 「4週以上」は実際には8週を超えず、「7ヶ月以上」は13ヶ月を超えないことを強く推奨。
- ◆ 5歳以上は既に自然免疫獲得済とみなされ、適応外となる。
- ◆ 初回免疫(2~6ヶ月開始児で最初の3回)は、全て1歳未満でやる。遅れた場合は↓
- ◆ 初回免疫の途中で1歳を超えたら、4週以上の間隔であと1回だけやり、それを[追加免疫]と見なしてHib接種終了。

● 小児用肺炎球菌ワクチン(PCV13)接種スケジュール

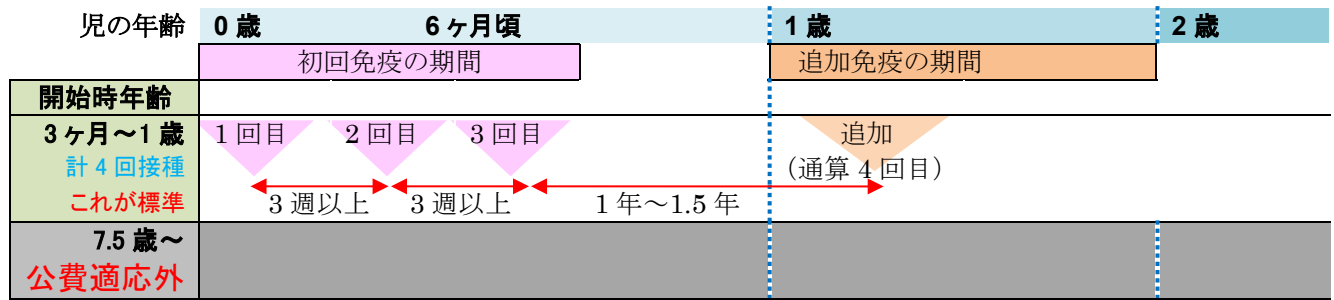
ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	0 歳	6ヶ月頃	1 歳	2 歳
開始時年齢	初回免疫の期間		追加免疫の期間	
2~6ヶ月 計4回接種 これが標準	1回目 2回目 3回目 4週以上 4週以上	←1歳前に3回完了させる 60日以上	追加 (通算4回目)	←1歳になり次第やる
7~11ヶ月 計3回接種	1回目 2回目 4週以上 ↑ 最遅2歳前 60日以上	追加 (通算3回目)		←1歳になってからやる
1歳 計2回接種		1回目 追加 (通算2回目) 60日以上		
2歳~4歳 1回接種				1回 で終了
6歳~ 適応外	5歳は公費適応外だが自費でなら接種可 6歳~ 接種不可			

- ◆ 理想的な接種は、2ヶ月、遅くとも6ヶ月から開始して1歳になる前に初回接種(3回)を済ませ、後に(1歳になり次第)追加免疫としてブースターかける為にもう1回、となる。追加免疫は必ず1歳になってから行う。Hibと同じ。
- ◆ 「4週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由はDPTPやHibと同時にやりたいから。RV・HBVも同時に。
- ◆ 初回免疫の2・3回目は、どんな遅くても全て2歳未満でやる。ただし普通にやれば1歳になる前に終わるはず。
- ◆ 初回免疫の2回目が1歳になっちゃった場合、2回目はやるが、3回目は飛ばして[追加免疫]に進む。
- ◆ 2013.11月にそれまでのPCV7からより幅広い免疫を得られるPCV13に移行し、同時に適応年齢も変更(10歳未満→6歳未満)された。PCV13とPCV7の差は、要するにPCV13の方が防げる肺炎球菌が+6種類多いという事。
- ◆ 2013/10/31までにPCV7を完了してる児は、より幅広い免疫を獲得するため、ラストのPCV7から8週以上開けて1回だけPCV13を接種したい。これをsupplemental doseと呼ぶ。海外では公費で行われたが、日本では自費である。

● 四種混合ワクチン(DPTP※- I 期) 接種スケジュール ※DPT-IPV とも記載

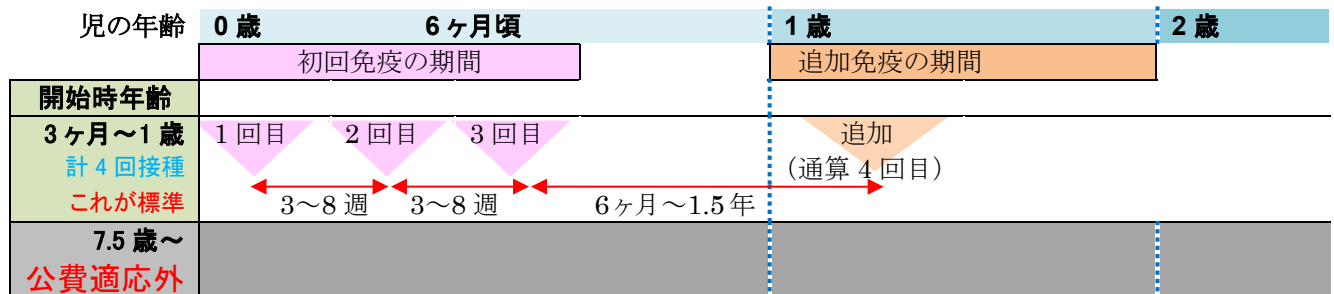
ワクチン種別: 不活化ワクチン



- ◆ 理想的な接種は、3 ヶ月から開始して 1 歳になる前に初回接種(3 回)を済ませ、後に(1 年後、即ち 1 歳 5 ヶ月前後)追加免疫としてブースターかける為にもう 1 回、となる。
- ◆ 「3 週以上」というのは、実際は 4 週間隔で、8 週を超えないことを推奨。理由は Hib や PCV13 と同時にやりたいから。
- ◆ 7 歳 6 ヶ月以上は適応外とされ、公費での扱いはなくなる。
- ◆ これ(DPTP)は従来の三種混合(DPT)と不活化ポリオ(IPV; 次項参照)を混ぜて 1 本にした製品なので、☆(DPTP を 1 本うつ)のと ★(DPT と IPV を別々にうつ)のは同じ意味。実際に接種するのは☆か★のどちらか一択。
- ◆ ただし 2014.12 月で DPT は出荷終了→廃止されたので、2015 年以降はこちら(DPTP)一択となる。
- ◆ ポリオ成分については、将来的には 10 歳位で? IPV 追加接種が必要とされるかも。ただし激しく未定。2016.4 月現在はこの↑スケジュールしか設定されていない。
- ◆ 以前(2013.3 月まで)は BCG がジャマで理想的なタイミングでの接種ができなかったが、2013.4 月から BCG の接種期間が延長された(1 歳未満まで OK)ので、やりやすくなった。BCG は後回しにして先にこっち(DPTP)やるべし。

● 不活化ポリオワクチン(IPV- I 期) 接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン



- ◆ **2015/01/01 以降、これを使う機会はないはず。** → DPTP 参照。特殊な用途で使う場合のために記載を残す。
- ◆ 既に経口生ポリオ(OPV)を 2 回接種した児は対象外。OPV 1 回接種した児はそれを「IPV の 1 回目済」として扱う。
- ◆ 理想的な接種は、3 ヶ月から開始して 1 歳になる前に初回接種(3 回)を済ませ、後に(1 年後、即ち 1 歳 5 ヶ月前後)追加免疫としてブースターかける為にもう 1 回、となる。これは DPT と全く同じスケジュール。
- ◆ 3～8 週というのは、実際には 4 週間隔を推奨。理由は Hib や小児用肺炎球菌ワクチン(PCV13)と同時にやりたいから。
- ◆ DPT と全く同時にやるわけなので、DPT と IPV を最初から混ぜてある 4 種混合ワクチン(DPTP)が 2012.11 月に出た。
- ◆ つまり IPV 単独での接種は、DPTP を使わず DPT を接種した人へのみ行う事になる。DPTP の中には IPV の成分も入っている訳なので、DPTP を使っている児は別途 IPV を接種する必要はない。
- ◆ ただし将来的には、DPTP を使った児にも後日(10 歳位で?)IPV の追加接種が必要、とされるかも。激しく未定。
- ◆ 2014.6 月現在では、7 歳 6 ヶ月以上は適応外とされ、公費での扱いはない。

●BCG ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン

児の年齢	0 歳	5 ヶ月頃
開始時年齢		
5~6 ヶ月 1 回接種 これが標準		1 回 のみ
1 歳~ 公費適応外		

- ◆ 理想的な接種は、**5 ヶ月頃に 1 回**、となる。DPTP・Hib・PCV などが一段落(最初の 3 回)してからの接種でよい。
- ◆ 2013.3 月までは「6 ヶ月未満まで」の接種だったが、2013.4 月から「1 歳未満まで」に延長された。
- ◆ 公費接種は**指定の医療機関でのみ**の扱い。みやクリは指定でないです(2014.6 月現在)。
- ◆ 自費接種であれば当院で可能。

●麻疹風疹ワクチン(MR)接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン

児の年齢	1 歳	5 歳	12 歳	17 歳
開始時年齢	標準		2013.3 月までの特別措置	
1 歳 計 2 回接種 これが標準	I 期 ←→ 1 歳である間に I 期	II 期 ←→ 年長さんである間に II 期	かつてはここに III 期(中 1)・IV 期(高 3)があったが、2013/03/31 で廃止された。	

- ◆ 理想的な接種は、**1 歳なりたてで 1 回接種 (I 期)を済ませ、後に幼稚園年長さんなりたての時にもう 1 回接種 (II 期)**。
- ◆ I 期は 1 歳である間、II 期は対象学年の 03/31 を過ぎると公費適応外となる(例外あり↓)。自費ならいつでも可。
- ◆ **江東区では**、小学校 4 年生の 03/31 までは公費で接種できる制度あり。ただし異常発生時の補償が薄いなど、お薦めしません。なるべく**本来の年齢 (I 期: 1 歳, II 期: 年長さん) の内にやるべき**。つか絶対やれ。遅れてもいいと思うな。
- ◆ 妊娠中に風疹に罹ると高確率で赤ん坊に障害が出る。特に女子は、**結婚前に抗体価調べ、低ければ必ず接種し直せ**。

●水痘(みずぼうそう)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン

児の年齢	1 歳	1 歳 6 ヶ月
開始時年齢		
1 歳 1~2 回接種 これが標準	1 回	2 回目 ←3 歳前に 2 回 完了させる
	3~6 ヶ月(最長 12 ヶ月)	

- ◆ 理想的な接種は、**1 歳で 1 回、1 歳 3 ヶ月~1 歳半、遅くても 2 歳未満でもう 1 回**、となる。
- ◆ 2 回目について、2012.4 月に日本小児科学会は「↑の時期を推奨」と発表、大幅前倒しした(それまでは 5~6 歳)。
- ◆ 2014/10/01 から公費接種となった。**1~2 歳 11 ヶ月児の間に 2 回**、無料接種できる。3 歳以降は自費。1 回目が 2 歳 9 ヶ月以降だと、2 回目時には 3 歳になってしまうので、2 回目は自費になる。
- ◆ 医学的には 2 回接種が望ましいが、長く自費任意接種だったため、今まであまり 2 回接種は行われていなかった。つか 1 回もやってなかった。
- ◆ 1 回目は MR・I 期と同時か、または MR・I 後 4 週以上開けてわりと早い時期の接種を推奨。
- ◆ 併せておたふくワクチン(1 回目)も行おうべき。どちらが先かは流行状況にもよるが、そもそも両者同時接種でよい。
- ◆ 妊娠中に水痘に罹ると、母体死亡や赤ん坊の障害につながる恐れあり。特に女子は、**結婚前に抗体価調べ、低ければ必ず接種し直せ**。まあ大抵(95%)は抗体持ってるのであまり心配いらないけど。
- ◆ 更に帯状疱疹予防の為、50~60 歳でもう一回やるとなお良い。

●おたふくかぜ(ムンプス)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン

児の年齢	1 歳	4~5 歳
開始時年齢		
1 歳 1~2 回接種 これが標準	1 回目	2 回目
	← 3~4 年 →	

- ◆ 理想的な接種は、**1 歳で 1 回、4~5 歳でもう 1 回**、となる。
- ◆ これは自費任意接種なので、**1 歳以上**という以外に接種時期・回数についての規定はないが、医学的には 2 回接種が望ましい。ただし現状、日本ではあまり 2 回接種は行われていない。つか 1 回もやってない。
- ◆ 1 回目は MR- I 期と同時か、または MR- I 後 4 週以上開けてわりと早い時期の接種を推奨。
- ◆ 水痘ワクチン(1 回目)とどちらが先かは、流行状況によっても異なる。て言うか、そもそも両者同時接種でよい。

●A 型肝炎(HAV)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	1 歳	1 歳 1 ヶ月頃	1 歳 6 ヶ月
開始時年齢			
1 歳 計 3 回接種 これが標準	1 回目	2 回目	3 回目
	← 1 ヶ月 →		← 5 ヶ月 →

- ◆ 理想的な接種は、**1 歳で 1 回目、1 歳 1 ヶ月で 2 回目、1 歳 6 ヶ月で 3 回目**となる。
- ◆ ただしこの設定 ↑ は暫定的な物で、必ずしも確定されていない。その理由は ↓
- ◆ 日本では、2013.3 月まで、HAV ワクチンは「16 歳以上に接種」とされ、小児への適応がなかった。しかし海外では小児にも接種しており、例えばアメリカでは 1 歳から接種している。この ↑ スケジュールはそれに準じた物だが、アメリカと日本では使用ワクチンが異なるため、日本の HAV ワクチンでもこれで妥当なのかどうかは議論の余地がある。
- ◆ 2013.4 月現在、日本のワクチンは添付文書(医療用薬剤の注意書きのこと)上は 0 歳児でも接種できる。

●日本脳炎ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	3 歳	4 歳	9 歳
開始時年齢	I 期初回	I 期追加	II 期接種
3 歳 計 4 回接種 これが標準	1 回目	2 回目	追加 (通算 3 回目)
	← 1 週以上 →		← 6 ヶ月以上、普通は 1 年 →
7.5 歳~(I 期) 13 歳~(II 期) 公費適応外			I 期は 7.5 歳以上 公費適応外 II 期は 13 歳以上 公費適応外

- ◆ 理想的な接種は、**3 歳なりたてで 2 回接種 [I 期初回接種] を済ませ、後に (約 1 年後、4 歳なりたて) で 1 回接種 [I 期追加]、更に 9 歳でもう 1 回接種 [II 期]、**となる。法的には 6 ヶ月齢以上なら可だが、普通は赤ん坊にはやらない。
- ◆ 「1 週以上」というのは、実際には 2~4 週間隔を推奨。4 週を超えないことを **強く推奨**。
- ◆ 「6 ヶ月以上、普通は 1 年」というのは、実際には 1 年間隔を推奨。1 年を大きく超えないことを **強く推奨**。
- ◆ I 期(最初の 3 回)については 7.5 歳以上、II 期については 13 歳以上になると公費適応外となる。ただし ↓
- ◆ 例によってアホが騒いだせいで近年しばらくワクチンが停止され、然るべき年齢で接種できなかった児が大量に出た。2009.6 月より順次再開され、更に **1995/04/02~2007/04/01 生まれの人は、20 歳前日まで何歳でも (7.5 歳~8 歳、13 歳以上も含む) 接種できる**、という特例も設けられた。これで中止期間に適齢期を過ぎてしまった児も全員接種できる。
- ◆ ただし、この ↑ 特例該当者には区から書類が送られてこない場合がある。この場合もみやクリ設置の書類で接種が可能。
- ◆ この辺非常にややこしくなってるので、詳しくはご相談下さい。

●二種混合ワクチン(DT-Ⅱ期)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	11歳～12歳
開始時年齢	
11歳 1回接種 これが標準	1回目
13歳～ 公費適応外	

- ◆ 理想的な接種は、**11歳に1回**、となる。
- ◆ これは DPT ワクチンのブースターに相当する。つまり DPT をきちんと 4 回接種していることが前提。
- ◆ 13 歳以上は適応外ではないが、公費での扱いはなくなる。

●髄膜炎菌ワクチン(MCV4)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	11歳～12歳
開始時年齢	
2歳 計1回接種 これが標準	最後の PCV13 1回目 4週以上

- ◆ 理想的な接種は、**11～12歳で1回**となる。(接種自体は2歳～55歳なら可能 次行↓のような人は早い方が良い)
- ◆ 日本ではあまり見かけない感染症だが、無脾・先天的な補体欠損など、易感染性のある人には早期の接種を強く推奨。
- ◆ しかしかかった場合の被害は甚大なので一般の人でも接種を考慮すべき。特に寮生活する人(だから11～12歳で推奨)。
- ◆ 不活化ワクチンなので当然数年(5年位?)で効果が低下する筈だが、2回目以降の接種について明確な基準はない。
- ◆ 北米や一部欧州への留学(学生寮等に入居する場合)やイスラムの大巡礼(Hajj)では接種が義務づけられている。
- ◆ 髄膜炎菌には多数の血清型があるが、日本で一番多いのはB群。しかし2019.1月現在日本で認可されてる唯一の髄膜炎菌ワクチンであるメナクトラはB群を防げない(血清型A,C,Y,W-135に対応)。困ったな。
- ◆ 海外には他にも髄膜炎菌ワクチンがあり、その中にはB群対応のものもあるが、現状日本では(普通には)使えない。
- ◆ 小児用肺炎球菌ワクチン(PCV13)を実施中の児では、それを全回完了後4週以上開けて接種する(メナクトラの場合)。
- ◆ 妊婦・授乳婦は治験されてないので接種を推奨しない。

●子宮頸癌(HPV)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	小6~高1			
	できるだけ処女である内			
開始時年齢				
女子中学生 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	←1回目から6ヶ月である事に注意 (2回目が遅れた場合は、別に既定あり<下記参照>)
	1~2ヶ月(製品で異なる) 6ヶ月			
何歳でも接種法は同じ	処女でなくても何歳でも。			

- ◆ 理想的な接種は、**女子中学生な内に3回**、となる。(法律上は小6~高1ならいつでも接種は可)
- ◆ 2014.6月現在、GSK社製“サーバリックス®”と、MSD社製“ガーダシル®”の2製品があり、効能等が微妙に異なる。
- ◆ 2回目接種が1ヶ月後か2ヶ月後かは製品種別による。“サーバリックス®”の場合は前者、“ガーダシル®”は後者。
- ◆ 2回目のタイミングは製品により異なる。“サーバリックス®”→1ヶ月後、“ガーダシル®”→2ヶ月後
- ◆ 2回目が遅れた場合、2→3回目の最低間隔は次の通り。“サーバリックス®”→2.5ヶ月以上、“ガーダシル®”→3ヶ月以上
- ◆ HPV **予防**ワクチンであって**治療ワクチンではない**ので、既感染を排除する力はない。従って HPV 未感染がほぼ確実な処女である内に接種するのが望ましい。
- ◆ しかし今現在 HPV-16/18 に感染してなければ意味があるので、処女じゃなくても何歳でも、全ての女性に接種を推奨。
- ◆ この接種をしても、「絶対に癌にならない」わけではない。**子宮頸癌健診などは必ず受ける**べき。
- ◆ 2013.4月から、全国統一的に**小6~高1女子は無料**。ただし「お知らせ」が届くのは中1女子。
- ◆ 例によってカスゴミが騒いだため、2013.夏より「お知らせ」が届かなくなった。あーあ。またか。また日本はこんな事を繰り返すのか。麻疹の大流行とその後遺症、妊婦の風疹感染と胎児の先天畸形、日本脳炎を巡る混乱、その他多くのことから我々は何も学ばないのか。結局、それで泣くのは我々の娘たちなのに。
- ◆ 視聴率さえ稼げれば何をしてもいいと思っているクズ共に天罰が下りますように。

●老人用肺炎球菌ワクチン(PPV23)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

年齢	2歳	65歳	70歳	75歳
開始時年齢				
65歳~ 5年毎接種 これが標準		1回目		
		5年 5年 5年毎繰り返し		
~64歳 公費補助外				

- ◆ 理想的な接種は、**年取ってきたら1回、あとは5年毎に1回ずつ繰り返し**、となる。(2歳以上ならいつでも接種は可)
- ◆ 主として老人の肺炎(の一部) 予防を目的としているので、「年取ってきたら」とは **65歳以上が一応の目安**となる。
- ◆ ただし PCV13 が登場した 2013 年現在としては、**2~5歳はこれではなくてむしろ PCV13**を推奨する。
- ◆ 19~64歳では、呼吸器疾患、喫煙者、心不全、糖尿病を含めた何らかの免疫不全等を持つ人には強く推奨される。
- ◆ ↑のような人たちと、全ての 65歳以上に、これの前に 1回 PCV13(小児用肺炎球菌ワクチン)接種を推奨する。ただし 2014.10月現在それは自費。その6~12ヶ月後に PPV23(このワクチン)。
- ◆ 2014/10/01より、65歳は公費による半額補助がある(江東区)。それ以上の年齢者は、当面「5で割れる年齢」なら可能。ただし **PPV23未接種である事が条件**とされる。
- ◆ 過去に接種した事があっても、自費であればその5年後から接種は可能。

附：みやくりいんちよの考える理想的なワクチン接種スケジュール（参考）

WHO 推奨ワクチン+日本の法律準拠 ただし日本では特殊な事しないと使えない物は非掲載

- ★ 縦↓に同じ欄に並んでいるものは同時接種推奨。
- ★ 横→に並んでいるものはワクチン種別により互いに適切な間隔を開けて接種する。
- ★ 「必須」は最低限こっだけはやっつけという意味。ただし色付いてない欄は自費。
- ★ 日本の予防接種は世界に比し大きく遅れていたが、2010年頃から大分改善されてきた。厚労省の中の人達頑張れ。超頑張れ。
- ★ 「できれば」は現状日本ではあまり(と言うか、ほとんど)行われていないが、医学的には推奨されるもの。
- ★ ワクチン略称(PCV13とかRVとか)の意味は本文を参照して下さい。

誕生から	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	7ヶ月	1歳	1歳1ヶ月	1歳5ヶ月	1歳6ヶ月
必須		DPTP I-初-1	DPTP I-初-2	DPTP I-初-3	BCG		MR I		DPTP I-追加
	Hib 初-1	Hib 初-2	Hib 初-3			Hib 追加	水痘 1		水痘 2
	PCV13 初-1	PCV13 初-2	PCV13 初-3			PCV13 追加	おたふく 1		
	HBV 1	HBV 2			HBV 3				
できれば	RV 1	RV 2	RV 3 ★1			HAV 1		HAV 2	HAV 3

★1・・・ロタテック®を使用した場合。ロタリックス®では、3回目はありません。

誕生から	3歳	4歳	5歳	9歳	11歳	女子中学生
必須	日脳 I-初-1,2	日脳 I-追加	MR II	日脳 II	DT II	HPV 1,2,3
できれば			おたふく 2		HBV 追加	
					髄膜炎菌 1	

いずれもみやたけクリニックで勝手に推奨している時期というだけなので、この時期でなければダメだという事じゃないです。

※この他に、毎年10月後半と11月中旬頃にインフルエンザ×2回。

※あと65歳以上の方は肺炎球菌ワクチン(PPV23)を5年毎。可能であれば最初のPPV23の半年～1年前に1回PCV13。

※帯状疱疹防止のため、50～60歳で高力価水痘ワクチン接種を推奨。

※2012/09/01より、ポリオワクチンが[生ワクチンの経口接種 → 不活化ワクチンの皮下注接種]に変更されました。

※2013/04/01より、小児にもA型肝炎ワクチンが接できるようになりました(それまでは日本では16歳以上でしか接種できなかった)。

※2013/10/31までにPCV7を完了している児は、ラストのPCV7から8週以上開けて、1回だけPCV13を接種しておきたい。(supplemental dose)

※髄膜炎菌感染は日本では少ないしワクチンが高価なので必ずしも全員に接種を勧めるわけではないが、寮生活予定者などでは考慮すべき余地はあると思う。

※本当は、HibやPCV13以外の不活化ワクチンは大人になっても5～10年ごと位に接種しなおす方が良い。(そうしてる国もある。日本では「中学以降は知らねえよ」って方針。)